

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が将来にわたって主体的に学び続ける意欲や探究心を高め、自らを伸ばさせることができるよう、教育課程編成や授業改善に取り組む。 学校行事や生徒会活動等を充実させ、自立と社会参加に必要な力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い学習ニーズに対応する多様な柔軟なIT講座の改革に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の通信制運営総合情報システムの更新に向け県教委と連携しながらどんな生徒でも履修しやすいIT講座の環境を整える準備をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやタブレットでも使うことができるようにして、学び直しや進学に向けた発展的な学習など、どんな生徒にもより充実した学習内容を提供できたか。 					
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する生徒の実態を踏まえ、学びたい生徒が安心して学ぶことができる環境を作る。 生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を適宜周知徹底することで、学びの活性化や安心な学校づくりを目指す。 多様化する生徒について、実態の的確な把握及び分析により、合理的配慮の理念に基づく効果的な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> インフォメーションシステムや「横浜修悠館通信」、ホームページ等を活用して情報を適切に発信することで、特別指導案件の未然防止を行う。 SC、SSW、精神科校医による相談体制、保護者教育相談会、個人面談月間等を活用することで相談体制の充実を図り、TRY教室、架け橋教室、悠ルーム等の利用を促すことにより生徒の学習活動が、順調に行えるよう支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導の延べ件数が昨年度より減っているか。 TRY教室、悠ルーム等、延べ750回以上の利用。 					
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を意識できる就労支援・進学支援の充実を図る。 インクルーシブ教育を推進し、多様な生徒の自らを伸ばさせる可能性を引き出す支援体制の構築を図るとともに、生徒一人ひとりがお互いを認め合う人権意識の涵養に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業観・勤労観の育成を図るとともに、生徒のニーズに対応した進路指導を実現する。 職業観・勤労観の育成を図るとともに、生徒のニーズに対応した進路指導を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任やキャリアアドバイザーと連携を取りながら、保護者も含めたキャリアガイダンスルームの活用を促し、生徒個々のニーズに応じた進路相談の充実を図る。 修悠館サテライトの広報に力を入れ、生徒の継続的利用を促す。 特別な教育的ニーズを有する生徒の進路実現のため、個別の支援計画の活用により、就労支援、社会参加への支援をいっそう充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業予定者のうちキャリアガイダンスルーム利用者の割合が増加したか。 卒業予定者以外の生徒のキャリアガイダンスルーム利用者の割合が増加したか。 一社あるいは一校でも受験した生徒が全員内定あるいは合格することができたか。 修悠館サテライトのべ相談件数が昨年度並みの200件以上。 個別の支援計画を作成した生徒の就労、または社会参加95%以上。 					

4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や外部機関との連携・協働を推進し、地域を信頼するとともに、地域に信頼される学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設訪問・地域貢献活動や地域の祭り等の行事への参加を通じて地域との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や委員会、またボランティアなどの様々な形で生徒が参加できるように機会を増やし、広報を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に参加を促す広報の機会を増やせたか。 ・施設訪問・地域貢献活動や行事に参加する生徒の割合を増やせたか。 					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が将来にわたって自らを伸ばさせる可能性を最大限に引き出すための、教員の能力向上や意識改革を図る。 ・すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省委託「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」の経過を共有しつつ、成果の取りまとめに取り組む。 ・日常生活と同様に、学びにおいても子どもたちがICTを手段として活用していくことを目指して、教育の情報化を加速する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資源と連携し、専門相談員が常駐する相談センター、またスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、キャリアアドバイザー等、校内外の支援資源との連携を推進して各種相談・支援の情報を共有し、重層的支援を図る。また、生徒への学習支援を外部機関との連携を通して展開し、生徒一人ひとりの学習にとってより良い効果が得られるシステムを構築する。 ・スクーリング（授業）におけるICT活用について、教員へのサポートを推進する。 ・生徒が本校のeラーニングシステムを有効に活用した学びを展開できるよう、サポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資源と連携した重層的支援システムのモデルを構築できたか。 ・外部資源との連携を通して学習支援を受けた生徒が進路実現できたか。 ・校内の先進的な取り組みを、校内外で共有できたか。 ・普通教室でのスクーリングにおいて、日常的にICTの活用が図られたか。 ・eラーニングシステムを活用した講座の単位修得率が向上したか。 ・次期eラーニングシステム（30年度～）の構築が支障なく行えたか。 					